TGR TEAM ZENT CERUMO

2021 AUTOBACS SUPER GT Report

たかのこのホテル OKAYAMA GT 300km RACE

第1戦　岡山国際サーキット

ZENT CERUMO GR Supra

#38 立川祐路／石浦宏明

◆4 月 10 日（土）　QUALIFY

公式予選結果　5 位

新型コロナウイルス禍に揺れた 2020 年を終え、短いオフシーズンを経ていよいよ SUPER GT は 2021 年シーズンの開幕を迎えた。2020 年、いまひとつ波に乗りきることができなかった TGR TEAM ZENT CERUMO にとっては、今季は捲土重来のシーズンとしたい。このオフ、立川祐路と石浦宏明という絶対的なコンビネーションは変わらないものの、新たに多くのチャンピオンカーを手がけてきた田中耕太郎エンジニアを招聘し、体制強化を図ってきた。

今オフは海外でのテストができなかったこともあり、２月のメーカーテストや３月の岡山国際サーキット、そして富士スピードウェイで行われた公式テストを経て、TGR TEAM ZENT CERUMO は開幕への準備を整えてきたが、少しずつ ZENT CERUMO GR Supra の熟成も進み、新たなメンバーも加えたチーム内部の雰囲気も良さが出はじめていた。こうして迎えた 4 月 10 日（土）、晴天に恵まれた岡山国際サーキットで、いよいよ午前 9 時 45 分からの公式練習に臨んだ。

まず ZENT CERUMO GR Supra のステアリングを握ったのは立川だ。まずはアウトラップからすぐにピットに戻り確認を行うと、これまでの公式テストで得られたデータから施したセットアップを確認しながら少しずつタイムを上げ

ていく。立川はその後２回のピットインを経て、18 周をこなし ZENT CERUMO GR Supra をピットへ。１分 19 秒 921 というベストタイムを残し石浦に交代した。

少しずつセットアップが改良されていった ZENT CERUMO GR Supra だが、石浦は引き続き確認を行いながら、同様にアウトラップで確認を行い、その後１回ピットインを行いつつ、GT500 クラスの専有走行の時間でニュータイヤを履き、予選シミュレーションに臨んでいった。この時点では、やや繊細さは残っていたものの、石浦は１分 19 秒 016 というベストタイムをマーク。この公式練習を９番手で締めくくった。

とはいえ、午後の公式予選に向けてより上のグリッドを狙っていきたい。午後２時からスタートした Q1 までに、TGR TEAM ZENT CERUMO はさらなる改良を施し、Q1 アタッカーの石浦に ZENT CERUMO GR Supra を委ねた。Q1 はまずは GT300 クラスの予選が行われたが、その走行後ということもあってかコンディションは好転。石浦は着実にタイヤをウォームアップさせると、４周目に午前から大きくタイムを縮める１分 18 秒 177 というベストタイムを記録。３番手につけ、Q2 の立川に繋いでみせた。

上位での Q2 進出ということもあり、立川にも期待がかかる。GT300 クラスの Q2 をはさみスタートした GT500 クラスの Q2 で、立川は１分 25 秒 530、１分 22 秒 081 とタイムを上げ、石浦同様４周目にアタックラップへ入っていった。

ただ、ここで立川はリヤに不安定さを感じてしまう。１分 18 秒 814 というタイムをマークするが、トップは１分 17 秒台に突入していた。どうやらコンディションの変化にともない、タイヤがより早くウォームアップし、ピークのグ

リップを出し切れなかったようなのだ。非常に繊細な現代の SUPER GT を象徴するかのような出来事で、終わってみれば ZENT CERUMO GR Supra の順位は５番手という結果となった。

３列目といえば悪くない予選順位ではあるが、とはいえ GR Supra 勢が上位を占めるなか、悔しさも残った。ただ ZENT CERUMO GR Supra のフィーリングは決して悪いわけではない。決勝レースでのさらなる上位進出を目指し、TGR TEAM ZENT CERUMO は一丸となって開幕戦に挑んでいく。

ドライバー／立川祐路

「正直に言うと、いまひとつうまくいかない予選日でしたね。公式予選 Q1 では、石浦選手が比較的良いタイムを出してくれていたので、自分も Q2 では良いタイムを出そうと意気込んでいたのですが、なぜかグリップが思うように出ず、良いタイムが出ませんでした。タイヤのウォームアップが良すぎて、リヤがタレてしまったような感じもあったので、難しい予選になってしまったと思います。明日挽回できるよう、なんとか頑張っていきたいと思います」

ドライバー／石浦宏明

「公式テストからはクルマは違う状態で持ち込んでいて、午前の公式練習のときにニュータイヤを履いたときから、ややピーキーさを感じていたのですが、データを見てもらったり、アジャストしてもらった結果、GT300 が走った後のコンディションの変化もあり、フィーリングは好転していました。ただアタックラップの翌周の落ちもあったので、なんとかピンポイントでまとめられたと思います。とはいえ、レースに向けてはもう少しいろいろなことを考えないといけませんね。予選では GR Supra 勢が上位に固まっており、以前の LC500 のデビューレースのようですね。レースがしにくいところはありますが、GR Supra 勢のなかで前にいかなければ表彰台も優勝もないので、いちばん前にいけるようにしたいです」

TGR TEAM ZENT CERUMO

村田淳一監督

「2021 年に向けてチームの核であるドライバーとエンジニアのうち、エンジニアが交代し、オフの間イチからクルマを見直し、準備してくれました。結果は 5 番手ですが、昨年に比べて大きな進歩もありましたし、Q1 では石浦選手が 3 番手タイムをマークしてくれました。Q2 では、立川選手がタイヤのウォームアップに関してタイミングがずれてしまったこともありましたが、これはチームの作戦ミスだと思います。そこは大きな課題ですね。しっかり情報収集しなければならないと思います。とはいえ 5 番手ですし、タイヤの保ちなどは天候次第ですが、しっかり準備をしてきたのでレースの展開をエンジニアと見極めていきたいと思います。ピット作業も練習してきたのでこれも着実に決めて表彰台を目指していきたいと思います」

TGR TEAM ZENT CERUMO

公式予選正式結果表

Rank	Car No.	CarName	Q2 Time	Q1 Time
1	37	KeePer TOM'S GR Supra	1'17.701	1'17.966
2	14	ENEOS X PRIME GR Supra	1'17.808	1'18.091
3	36	au TOM'S GR Supra	1'18.060	1'18.190
4	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	1'18.440	1'18.665
5	38	ZENT CERUMO GR Supra	1'18.814	1'18.177
6	64	Modulo NSX-GT	1'19.057	1'18.471
7	16	Red Bull MOTUL MUGEN NSX-GT	1'21.987	1'18.436
8	19	WedsSport ADVAN GR Supra	未計測	1'18.514
9	17	Astemo NSX-GT		1'18.682
10	3	CRAFTSPORTS MOTUL GT-R		1'18.699
11	1	STANLEY NSX-GT		1'18.826
12	23	MOTUL AUTECH GT-R		1'18.859
13	12	CALSONIC IMPUL GT-R		1'18.926
14	8	ARTA NSX-GT		1'19.046
15	24	REALIZE CORPORATION ADVAN GT-R		1'19.547